



# 近世人物誌

## やまと新聞附録(貳)

中村之翫の妻  
 非優中村之翫の妻名を阿光と云ひ新原  
 仲の町に茶屋渡世屋振屋五兵衛の養女  
 光の芝翫嫁はるや世帯を仕舞ひ母諸共  
 一家を擧て移住せりりの如く評語世帯  
 帯ふりのめきたり光の才女たるは梨園  
 社會に隠さざる事と處すや太夫  
 芝翫の目入て其承諾あらざれば行はず  
 素来和して聲高人物言たる事  
 然も事臨し動せざる男子と雖り  
 及まら如 其一例を奉ふ一年十月休中  
 芝翫菊五郎の一座を静岡地方へ趣きた  
 事あり 其興行充分の入りし  
 得失償ふ不足より立元五日間の日延  
 を一切無給にて出勤せしめて止む  
 歸京の日取りを遅く一同の迷惑大方  
 しか 無く立元八元新微組の何某  
 呼る鬼も取組むに屈竟の壯士四五人  
 頼て批合無給出勤の事とてせしめ  
 一同怖まて之を答辨する者あり  
 を光らら出會て辨解す所あり  
 壯士も其理を服し是の談爰を結ひ  
 其翌日歸京の途に就き秋興行の初習  
 無り偏光の膽力振り加へるは  
 の業に其専門家を遠く及ぶの妙  
 養子福助の裏阿古を演し頃朝の  
 まね光の教授出たり芝翫の性温良  
 るふ此妻あり天の配前妙あり



中村福助



發行所 東京 京橋區 二丁目上 時時書局 依二

